

令和3年度 事業報告

I 概要

少子高齢化の進行により、わが国における高齢化率(65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合)は、2021年9月現在で 29.1%と前年比で 0.3ポイントの増加となり、日本はダントツで世界のトップを走っています。

また、生産年齢人口(15歳以上65歳未満の人口が総人口に占める割合)は、1995年の 69.4%をピークに 2021年には 59.4%と 10ポイントの減少をし、2060年には 51.6%まで減少すると見込まれております。

このように 急速な少子高齢化と人口の減少が進む中で、「人生100年時代」と言われる社会において、高齢者がいきいきと生涯を過ごすためには、シルバー人材センターの存在意義は大きく、いくつになっても、いくつからでも働ける生涯現役社会の実現を目指すために、シルバー事業の積極的な取り組みが期待されています。

こうした中、コロナ禍のために活動の制約を余儀なくされた一年間でしたが、当シルバー人材センターでは会員の社会参加、社会貢献、生きがいの充実を図るとともに、地域社会へのニーズに応えるために、会員増強と就業機会の確保を積極的に推進しました。

その結果、請負事業の契約額は前年比 4.2%、派遣事業の契約額は前年比 8.2%とそれぞれ増加し、会員数も 63名増となるなど、着実に事業の拡大を図ることができました。

また、新たに発足した女性部会「がマダム1000」の積極的な活動により、就業ニーズの多い女性会員の比率も 前年の 41.4%から 44.8%へと大きく向上するとともに、新たな就業機会の確保として、「妊婦から子育て期の家事支援事業」、「シルバー寺子屋」、「焼き芋販売」など、シルバー事業の活性化に取り組んできました。

令和3年度の事業報告の詳細につきましては、以下のとおりです。

II 活動報告

(1) 就業機会の確保と組織的提供事業

「いくつになっても、いくつからでも働ける生涯現役社会」を目指して、会員の就業支援を進めるために新たに就業開拓員を配置し、会員の就業ニーズと地元企業等のニーズを把握・分析し、積極的に就業機会の拡大に取り組みました。

- 会員の多様な就業ニーズに応えるため新たに就業開拓員を採用し、地元企業に対してチラシ等によるシルバー事業の紹介、過去のお客様への訪問、既存先への新たな就業機会の提案、公的機関への積極的な就業開拓などを行い、就業機会の拡大を図りました。

- 新たに、保育園の消毒作業（就業会員 延べ 3, 200名）、妊婦から子育て期の家事支援（就業会員 延べ 134名）、シルバー寺子屋（就業会員 延べ 132名）、焼き芋販売（就業会員 延べ 30名）などの事業を開始し、就業機会の拡大を図るとともに、毎月「就業相談会」を開催するなど、会員の就業支援のためニーズに応じた就業情報の提供を行いました。

(2) 指定管理事業

「生きがいセンター」の指定管理者として、新型コロナウイルス感染症への予防対策を徹底し、利用者が安全・安心して活動できるように情報の収集、周知を行い、地域の活性化のために、人づくり・地域づくりの拠点としての役割を果たしてきました。

- 「生きがいセンター」の指定管理者として、度重なる利用制限の情報を的確にお知らせし、マスクの着用、手指消毒、三密回避などの新型コロナウイルス予防対策を徹底するとともに、利用者みなさんにも検温や、施設利用後の除菌作業の協力をしていただくなど、コロナ禍における「生きがいセンター」の利用促進に努めました。
- 地域住民と施設利用者とのコミュニケーションを促進し、地域の活性化を図るため、7月には「生きがいセンターまつり」を、10月のシルバー普及月間には「シルバーオータムフェス」を、田原市シルバー人材センターとの協賛により開催し、地域づくりに貢献しました。
- 「生きがいセンター」の運営の改善を図るため、利用に関するアンケート調査を実施し、安全・安心な利用環境の整備と改善に努めました。

(3) 有料職業紹介事業

企業の求人ニーズを、シルバー会員および地元の高齢者のみなさんに情報提供することにより、求人と求職のニーズをマッチングさせ、本人が直接雇用を希望する場合や、直接雇用が適切であると判断される業務については積極的に有料職業紹介により対応しました。

- 企業訪問による就業開拓や、ハローワークの求人情報の活用などにより企業のニーズを幅広く収集し、直接雇用が相応しい業務については職業紹介という方法で会員や地元の高齢者に情報提供をすることで、新たに 6件の職業紹介を行いました。

(4) 労働者派遣事業

高齢化や労働力人口の減少が進行する中、シルバー人材センターが人手不足分野や、現役世代を支える分野における労働力の担い手となることを自負し、当センターは新たに就業開拓員を採用し労働者派遣事業の拡大を図ってきたことにより、新型コロナウイルス感染症による雇用状況の悪化の中でも、順調に事業拡大をすることができました。

- 地域と会員の就業ニーズのマッチングを図るために、就業開拓員を配置し派遣受入事業所の開拓を推進したことにより、新規受注件数は新型コロナウイルス感染症の影響で7件の微増にとどまりましたが、契約金額は前年度比8.2%の増加と、順調に業績の拡大を図ることができました。
- 発注先企業ならびにセンター職員に対して「適正就業ガイドライン」の周知徹底を行い、就業の適正化を図りました。

(5) 知識及び技能の付与を目的とした講習の実施事業

会員や地元の高齢者の関心が高い業務分野の知識、技能に関する研修や講習会を実施し、将来的な就業の機会に繋げていくためのスキルアップを援助することで、生きがいの充実、社会参加の促進を図りました。

- 県シルバー人材センター連合会の主催する高齢者活躍人材確保育成事業を活用し、一般市民向けの「庭木剪定技能講習」を開催し、15名の参加者が4日間にわたり技能講習と剪定実習を受講しました。
- コロナ禍において、研修や講習会等の開催が制限される中、会員および一般市民向けに「草刈り講習会」を3回、運転業務に携わる会員や通勤時に自転車を使用する会員向けに「交通安全講習会」を3回、「健康講座」など公開講座を4回、「女性のための生涯学習講座」を2回開講し、会員の生きがいの充実、社会参加の促進を図りました。

(6) 調査研究事業

事業運営の向上、拡大を図るため、先進シルバーへの視察研修による事例研究を積極的に行うとともに、「月刊シルバー人材センター」などを参考に、新規事業参入へのノウハウや、独自事業への情報収集に努めました。

- 独自事業の立ち上げ準備のため、高浜市シルバー人材センターを視察訪問し「焼き芋販売事業」の運営手法などを教示していただきました。
- 草刈り作業における安全就業を勉強するため、日進市シルバー人材センターを訪問し、安全・安心な作業方法を教示していただきました。
- 退会抑止策として、2月、3月に役員が電話による就業状況等の聞き取り調査を行い、その結果に基づいて、未就業理由の分析、会員継続のための対応策を検討し、就業率アップと会員の増強に努めました。

(7) 相談事業

センターの円滑な事業運営と活性化を図るため、入会希望の相談、既存会員の就労に関する相談会などを定期的に、また随時行いました。

- 入会希望者を対象に、新型コロナウイルス感染予防対策を講じたうえで、毎月第2火曜日に完全予約制での「お仕事説明会」を、第3木曜日には「会員証交付会」を開催し、シルバー人材センター事業の周知を図りました。

また定例の説明会に加え、女性限定、地域限定、業種を特定した説明会など、様々な切り口で入会希望者との相談の場を設けたことで、令和3年度は 63名の新規会員増という成果を得ることができました。

- 未就業会員には毎月「就業相談会」を開催するとともに、窓口での就業紹介を行うなど、お仕事情報の提供ならびに就業機会の確保に努めました。
- 発注希望者からの相談については、ホームページの充実、チラシ等の配布により、事業活動の周知を図りました。

(8) 安全・適正就業推進事業

シルバー会員が健康で安心して就業できるように、作業中の事故防止、就業途中の交通事故防止などの啓発に努め、「草刈り講習会」、「剪定講習会」、「交通安全講習会」などを実施することにより、安全意識の徹底に努めました。

- 令和3年度は、剪定作業での器物破損事故 1件、草刈り作業での飛び石事故 5件など損害賠償事故が 6件、傷害事故が 7件発生し、前年度に比べ 7件の増加と、残念な結果となりました。このため、年度後半からは剪定、草刈りの安全パトロールを強化し（延べ 26回実施）、事故の発生防止に努めました。
- 「安全・安心なシルバー人材センター」を目指して、当センターでの事故発生状況を安全対策部会や衛生委員会で報告、対策の検討を行うとともに、全会員を対象に安全標語の募集キャンペーンを行い、安全意識の向上を図りました。

(9) センターの活動等について周知を図る事業

シルバー人材センター事業の理念、活動を地域住民ならびに関係者に広く周知するため、ホームページやInstagramによる活動紹介や、地域イベントを企画し、積極的に普及啓発活動に取り組みました。

- 定例の「お仕事説明会」に加えて、女性限定や業種を特定した説明会などを開催し、状況に応じた臨機応変な事業説明を行ったことにより、会員拡大を図ることができました。
- コロナ禍のため規模を縮小しましたが、地域住民との交流のために例年開催している「生きがいセンターまつり」や「シルバー・オータムフェス」を実施し、地域住民とのコミュニケーションを図りながら、シルバー活動の楽しさや事業の啓発活動に努めました。
- 市に対して、シルバー事業への理解と積極的な協力の要請を続けたことにより新しく 新型コロナウイルス感染症対策として導入された、保育園への消毒作業の受託が決まり、地元紙への掲載やケーブルテレビでの放映により、シルバー活動の周知を図りました。
- 女性部会「がマダム1000」による「スマホ教室」、「ガーデニング教室」、「料理教室」、「ハイキング」など、種々の活動状況を、ホームページやInstagramで紹介することにより、活動の周知を図りました。

(10) その他センターの目的を達成するために必要な事業

高齢者の社会貢献活動を通じた健康で生きがいのある生活の実現と、地域社会の福祉の向上と活性化に貢献するため、蒲郡市からの委託事業である「高齢者介護支援ボランティア事業（まごころDEちよいボラ）」および、新たに委託された「妊婦から子育て期の家事支援事業（のこのこ子育て支援）」を推進しました。

- 「ちよいボラ」は、コロナ禍のため満足な活動ができず、技術研修については年3回の計画度どおり実施することができましたが、活動自体は全くできませんでした。
- 「のこのこ」については、昨年7月からの活動でしたが、対象となる子育て期のみなさんからの要望が多く、年間利用は目標の90件に対して、実績が191件となり、大きな成果をあげることができました。